

# 平成 16 年度試験研究成果書

区分	指導	題名	主要作物の生産技術体系及び収支データ	
[要約] 現下の経営環境に応じた新たな生産技術体系の策定にあたり、想定規模及び栽培様式等前提条件を全作物において明確化するとともに、体系データの作成・修正を容易にするための様式、作成方法について整理した。				
キーワード	生産技術体系	デジタル化	経営設計指標	○企画経営情報部 農業経営研究室 関係部(所) 関係研究室

## 1 背景とねらい

平成 8 年に策定された生産技術体系は、『経営くん』『クーボー博士』と併せて経営指導や各種事業等の経営計画策定等に活用されているが、策定後 8 年が経過し経営内外の環境が大きく変化していることから、体系の策定・見直しが求められている。今回、技術体系の策定にあたり、想定規模及び栽培様式等前提条件を全作物において明確化するとともに、体系データの作成・修正を容易にするための様式、作成方法について整理したので参考に供する。

## 2 成果の内容

これまでの生産技術体系及び収支データに関する課題(表 1)を踏まえ、積算内訳表、生産技術体系表、収益・費用計算表からなる生産技術体系関係ファイルを作成した(表 2)。このファイルに基づき各作物の生産技術体系を策定する。

- (1) 作業時間及び資材投入量の積算根拠、出典等詳細情報については、「積算内訳表」に作業項目毎に記述する。この情報の参照により体系データの確認・修正が容易になる(図 1)。
- (2) 「生産技術体系表」は、[基本情報][想定規模][単位面積当たり]の 3 シートからなる。基本情報シートには、作物名のほか栽培様式、想定規模、適応地域等情報を設定する(図 2-1)。体系データの入力・修正を行うのは想定規模シートであり、作業項目毎に、作業時期、使用機械、組作業人数、投入資材、旬別労働時間等を 1 行で記述する。このため「いつ、何時間かけて、どんな資材を投入し作業を行うか」が理解しやすい。旬別労働時間表は、入力された労働時間及び旬別分配係数表に基づき算出される(図 2-2)。
- (3) 単位面積当たりシートは、基本情報及び想定規模シート値から自動的に値が生成される。
- (4) 使用機械及び投入資材は、名称、使用量、単位それぞれ別フィールドでの入力を行うため、数値の計算がしやすく、データベースへの移行も容易である(図 3)。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 対象とする経営体や地域によって、機械装備、防除・施肥体系、採用技術、作型(作業時期)等が当然異なることから、利用の際には、標準技術体系をそのまま使うのではなく、体系データの構成を理解したうえで、積算内訳表等をみながら地域の実情に応じ確認・修正して利用することが極めて重要である。
- (2) 全作物の生産技術体系表(Excel 形式)及び積算内訳表、収支・費用計算表等関連データについては、後日、CD-ROM に記録し、説明書を付して関係課・公所に配付する予定である。
- (3) 今回作成した生産技術体系データは、資材・機械、作業時間等関連テーブルに整理・データベース化したうえで、開発予定の新たな農業経営設計システムに利用することとしている。

## 4 成果の活用方法等

### (1) 適用地帯又は対象者等

改良普及員等指導者、行政関係者、技術・経営研究者、主業型農家、生産組織等

### (2) 期待する活用効果

農業者、生産組織等の経営計画策定支援、新品目導入時の経営シミュレーション、地域営農計画、営農類型作成、開発技術の経営経済評価等への活用が期待される。

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(H16-02-1000)生産技術体系データベースの構築[H16~H17、県単]

## 6 参考資料・文献

- (1) 前山薫・南石晃明「農業経営支援システムの課題と今後の開発方向—岩手県におけるアンケート分析—」『2004 年度農業経済学会報告要旨』、pp. 32、2004 年
- (2) 平成 8 年度指導上の参考事項「平成 8 年度改訂版『経営くん』」、1996 年

